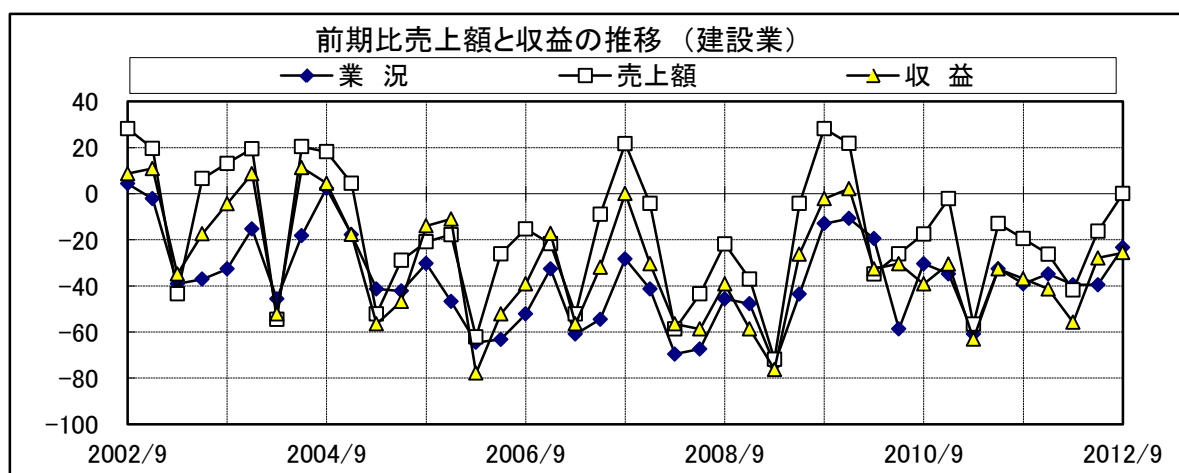


建設業 43 企業（回答率 100.00%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-34.8	-39.5	-39.5	-25.6
売上額	-26.2	-41.8	-16.3	0.0
収 益	-41.3	-55.8	-27.9	-7.0

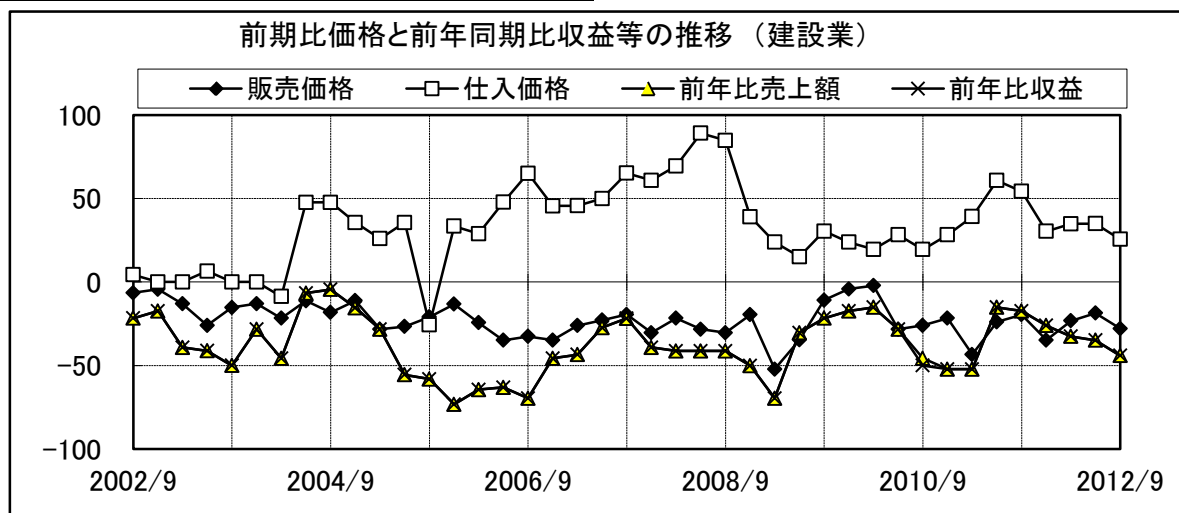
今期の業況判断DIは $\Delta 39.5$ と、前期比横ばいとなった。地区別にみると、静内、えりも、広尾地区で上昇し、浦河、三石、様似地区で下降している。売上額判断DIは $\Delta 16.3$ と、前期比 25.5 ポイント上昇した。収益判断DIも $\Delta 27.9$ と、前期比 27.9 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
請負価格	-34.8	-23.2	-18.6	-14.0
仕入価格	30.4	34.9	35.0	34.9

請負価格判断DIは $\Delta 18.6$ と、前期比 4.6 ポイント上昇し、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DIは 35.0 と、前期比 0.1 ポイントの上昇で、ほぼ横ばいの動きとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-17.4	-0.1	-18.6	-7.0
人手状況	-10.9	7.0	11.7	-6.9

残業時間判断DIは $\Delta 18.6$ と、前期比 18.5 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断DIは 11.7 と、前期比 4.7 ポイント上昇し、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

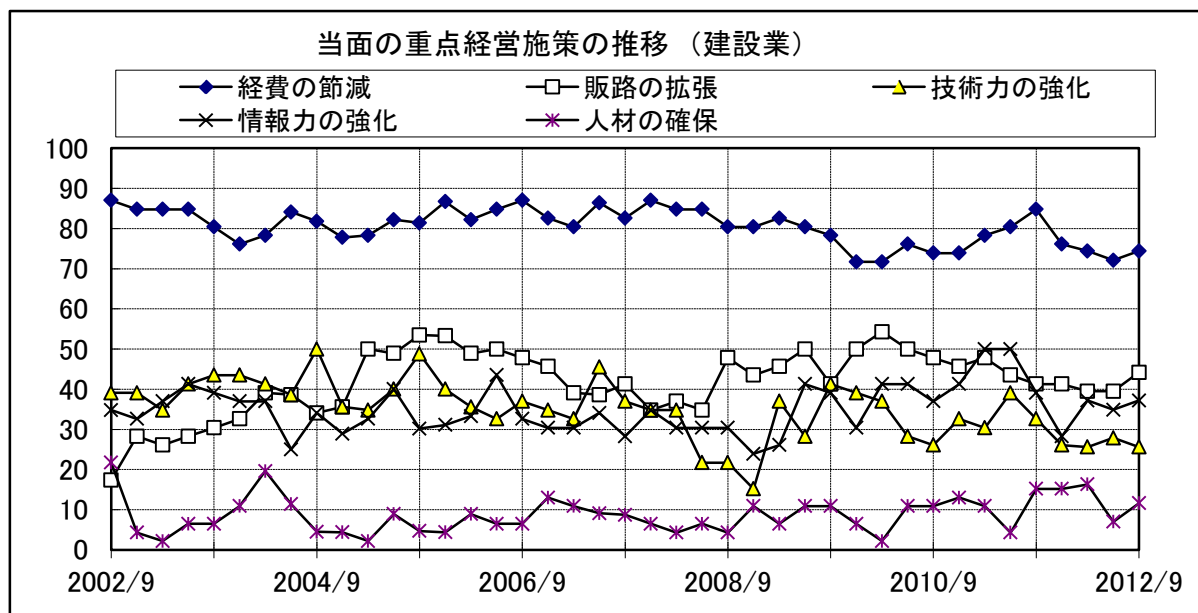
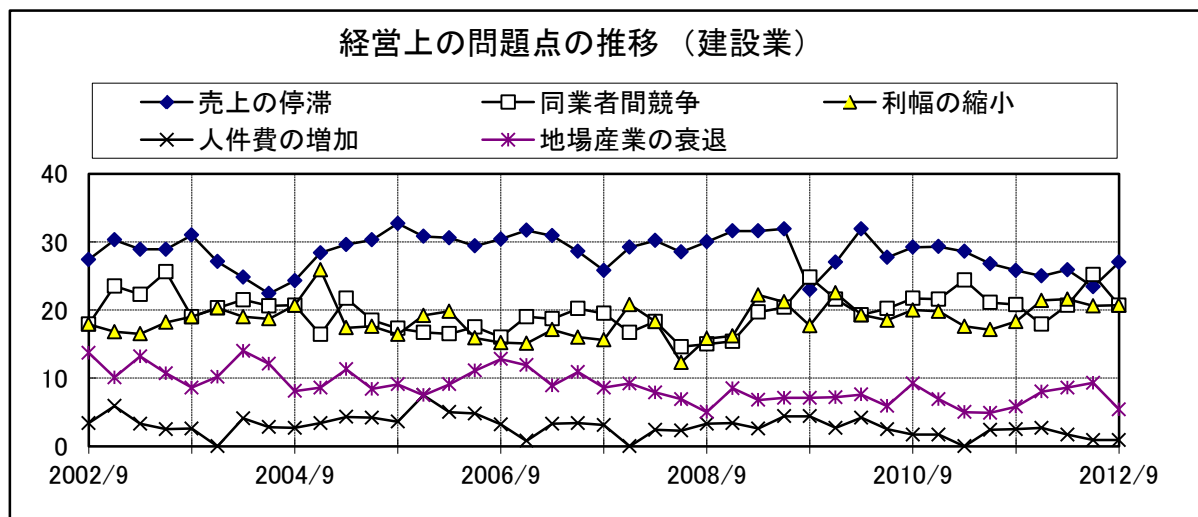
設備投資の充足感を示すD Iは、設備の過不足割合が同数値上昇し、前期と同じくゼロ水準となった。

設備投資実施企業割合は25.6%と、前期20.9%比4.7ポイント上昇、件数で前期の9社に対し11社の実施となった。来期の設備投資は、当期比4社減の9社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「同業社との競合」をトップに挙げ25.2%、次いで「売上停滞減少」23.4%、「利幅の縮小」20.6%、「地場産業の衰退」9.3%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ72.1%、次いで「販路の拡張」39.5%、「情報力の強化」34.9%、「技術力の上昇」27.9%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△25.6と、今期△39.5と比べ13.9ポイントの上昇見通しとなっている。

予想売上額判断D Iは0.0と、今期と比べ16.3ポイントの上昇を見通している。予想収益判断D Iは△7.0と、今期△27.9と比べ20.9ポイントの上昇を見通している。

予想請負価格判断D Iは△14.0と、今期△18.6と比べ、4.6ポイント上昇し、価格低下基調が弱まる見通しとなっている。一方、予想仕入価格判断D Iは34.9と、今期35.0とほぼ横ばいの見通しとなっている。

卸売業 7 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

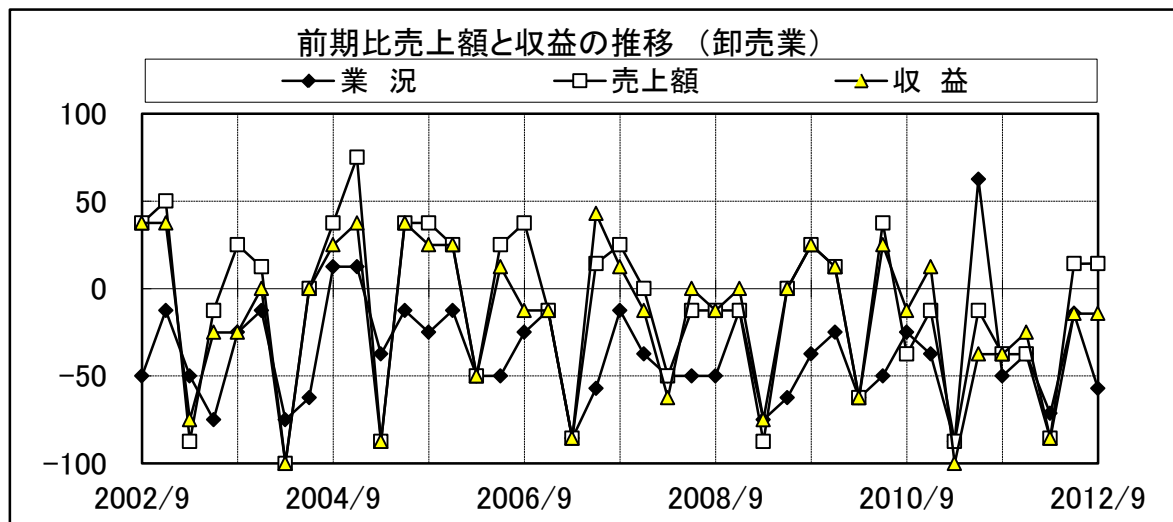
□ 景 況

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
業 況	-37.5	-71.4	-14.3	-28.6
売上額	-37.5	-85.7	14.2	14.3
収 益	-25.0	-85.7	-14.3	14.3

今期の業況判断DIは△14.3と、前期比 57.1 ポイントの上昇となった。地区別にみると、静内地区で横ばいとなった以外、浦河、三石、様似地区では上昇となっている。

売上額判断DIは 14.2 と、マイナスからプラス値となり、前期比 99.9 ポイント大幅に上昇した。収益判断DIも、△14.3 で、同比 71.4

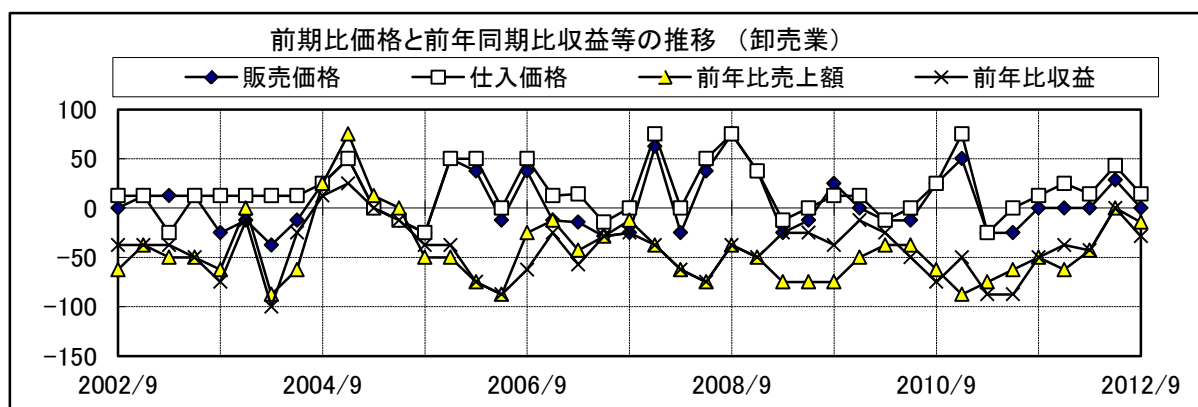
ポイントの大幅な上昇となった。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
販売価格	0.0	0.0	28.6	14.3
仕入価格	25.0	14.3	42.9	28.6

販売価格判断DIは、前期比 28.6 ポイント上昇し価格上昇基調となっている。仕入価格判断DI 42.9 は、前期比 28.6 ポイント上昇し、価格上昇基調を強めている。業種別にみると、水産は販売価格、仕入価格ともに上昇し、食品は販売価格で横ばい、仕入価格で下降している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期実績	7~9月 期見通し
残業時間	-12.5	0.0	0.0	42.8
人手状況	12.5	14.3	14.3	-14.3

残業時間判断DIは、前期同様ゼロ水準で変わらず。

人手過不足判断DIも前期同様 14.3 ポイントで変わらず。人手過剰感が続いている。

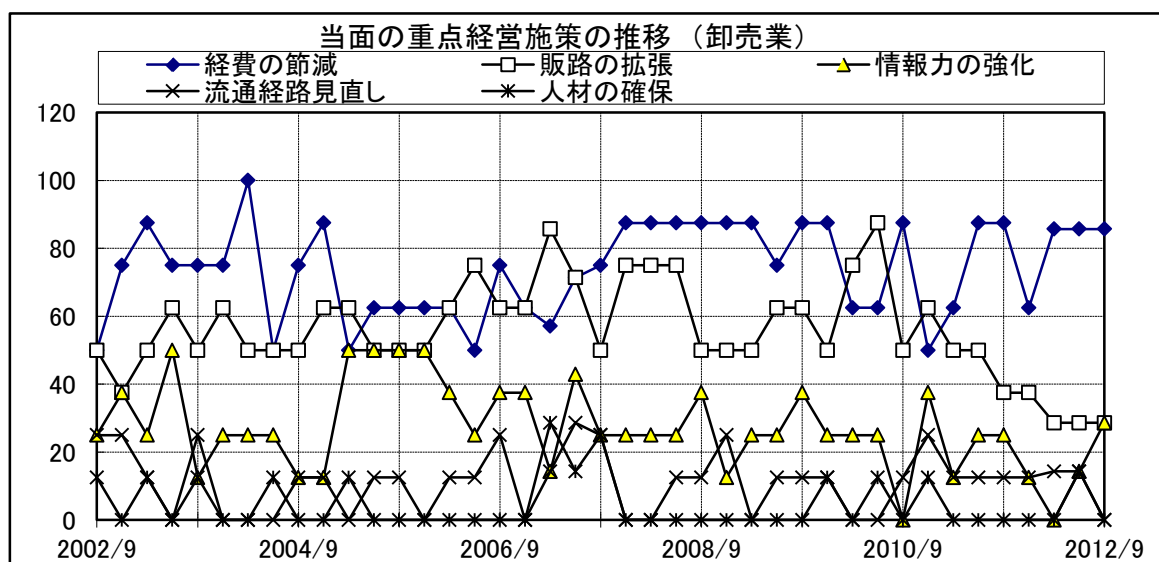
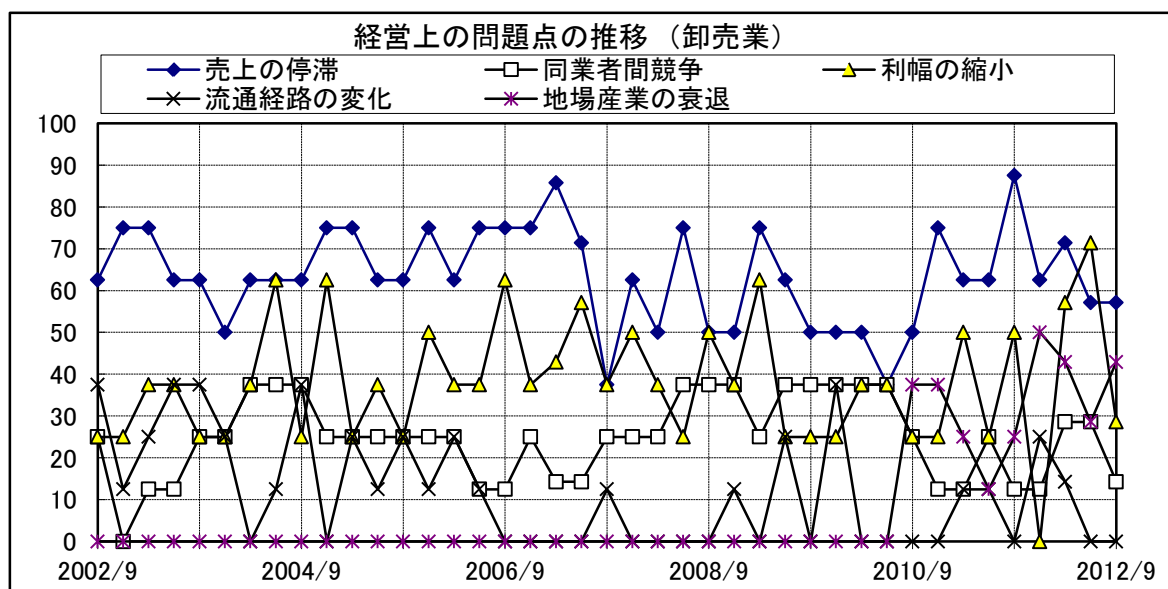
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD Iは14.3で、前期と同値となった。設備投資実施企業割合は、14.3%と前期から14.3ポイント上昇、件数で前期0社の実施に対し1社となった。来期の設備投資は、1社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「利幅の縮小」71.4%、「売上の停滞」57.1%、「同業者との競合」、「取引先の減少」、「地場産業の衰退」が同値の28.6%で続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ85.7%、次いで「販路の拡張」28.6%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D Iは△28.6と、今期△14.3と比べ14.3ポイントの下降見通しとなっている。予想売上額判断D Iは14.3と、今期14.2と比べ0.1ポイント上昇の見通しとなっている。予想収益判断D I 14.3は、今期△14.3と比べ28.6ポイントポイント上昇し、低下基調から上昇基調への見通しとなっている。一方、予想販売価格判断D Iは14.3と、今期28.6と比べ14.3ポイント下降見通しとなっている。予想仕入価格D Iも28.6と、今期42.9と比べ14.3ポイントの下降で、販売、仕入ともに価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。